

題 排気ガス「ゼロ」の電気推進船操縦記

近年、低燃費なハイブリッド車が街中を沢山走っていますが、道端を歩いている時、排気ガスの臭いを感じる時はありませんか？

船舶は車両よりも多くのディーゼル燃料を消費しますが、それを全く使わず、排気ガスが全く出ない電気推進船が存在します。

当時は大学研究機関と連携して、漁船の電気推進化の研究を行っていることから、このたび、東京海洋大学（旧国立東京商船大学）清水悦郎教授が研究している電気推進船に乗船し、操縦させて頂く機会を得ましたので、その様子をご紹介します。



乗船した電気推進船 「らいちょう I」



燃料電池船「らいちょう N」

1 え？こんなにすぐ出航が可能？

清水教授から電気推進船の概要説明を受けたのち、「では行きますか」と言われてから1分も経たないうちに、船はスーッと滑るように出航してしまいました。ディーゼルエンジン船の船員にとっては、え？と驚くばかりです。何故なら一般的な船舶の場合、バルブを開けたり、オイルを暖めたり、暖機運転したり、出航前の点検や作業が沢山あるからです。しかし、電気推進船の出航準備は一切不要！ スイッチ押して、はい出航！笑

2 船内は静かで紳士的な会話が可能でした

エンジン音がないのでとても静かな船内。波の音しかしない……。ヨットの世界です。大声を出さなくても会話ができます。船舶機関士は長年のエンジン音で耳が難聴になっている方が多いので、船内の会話は大声になってしまうことがありますが、電気推進船の船内は、とても静かでした。



とても静かな船内



「ほうじょう」航海士の操縦状況

3 電気推進船の操縦

豊洲市場から隅田川永代橋まで、「ほうじょう」の船員3名が交互に操縦させて頂きました。しかし、ここでも驚きは隠せません。なぜなら普段見慣れた航海計器類が一切ないからです。エンジンがないので、油圧計もなし。冷却水温度計もなし。排気温度計も吸気圧計もなし。操縦者の負担はとても少ないと感じました。転舵、増速しても操縦性能に不安はなく、既に旅客船として実用化されていることを納得しました。

電気推進船は油類を全く使わないので、油の漏洩による海洋汚染や排気ガスの問題が生じず、地球環境にとっても優しいという大きなメリットがあります。電気推進船は、豊かな海を次の世代に引き継ぐ賜物になるかもしれません。また、漁業従事者の方々にとって、船舶の維持費や労働力削減に繋がる可能性はとても大きいと感じました。これを機に、電気推進船に関し、少しでも興味を持って頂ければ幸いです。

最後に、東京海洋大学の清水教授が熱く説明する光景は、私たちの胸を打つものでした。今後、多くの実用化に向けて期待を感じさせるものでありました。